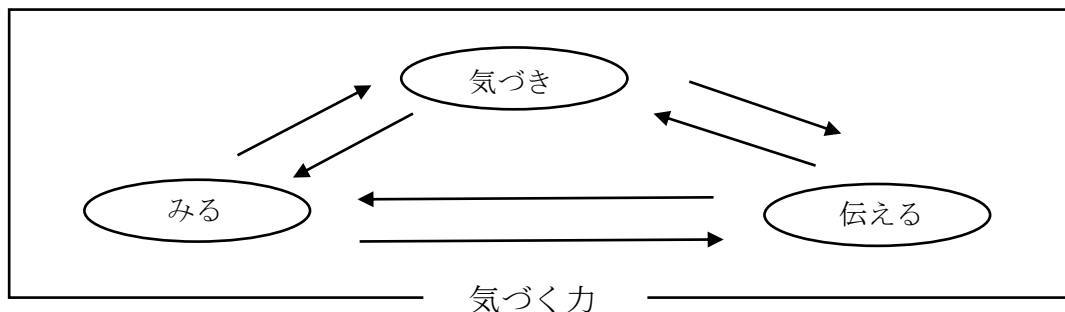


教師の「気づく力」とは何か ～子どもを「みる」ということ～

渡部 真智子



<「みる」を漢字から考える>

- ・「視る」・・・つまびらかに見る、まっすぐに見る
- ・「察る」・・・こまかに見る、詳しく調べる、はっきり見分ける
- ・「面る」・・・細かく観察する

<子どもを「みる」ために>

○「児童調査票」、「指導要録」、「前担任との引き継ぎ」などを活用する

子どもを取り巻く家庭環境や育成過程の把握が必要。

特に、家族構成をはじめ、家族の健康状態、家庭環境の把握が必要である。

子どもの行動の動機が家庭環境から理解できることもある。

(例えば、家で親がけんかをする、他の子と比べるなどの行為がある場合子どもはイライラでしやすい状況になるなど)

○子どもから子どもを知る

いくら前担任から話を聞き、調査票や指導要録で調べてみても、大人の目だけではわからない情報がある。子どもから得られる情報は大人の見えない盲点をつき、貴重である。

↓

「子どもから子どもを知る」では子どもの日記や良いこと見つけが有効だと考える。日記や良いこと見つけの中には、教師が気づかなかった子どもの良さや変化が隠れていると思う。それらは子どもを「みる」時のヒントにできるのではないだろうか。日記にしっかりと目を通し、そこから子どもの気持ちや変化をとらえることがその後の子どもを「みる」ことにつながる。

※参考文献 『子どもの心をどうつかむか』

